

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4272200157
法人名	有限会社 グループホーム翁頭
事業所名	グループホーム翁頭
所在地	〒853-0024 長崎県五島市野々切町253番地1 (電話) 0959-75-5311

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価確定日	平成21年3月25日

【情報提供票より】(H20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 9 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 7,9 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	320 円	おやつ 30 円

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	8 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低 65 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖マリア病院・才津歯科医院
---------	---------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い丘の中腹の広い敷地に平屋建てのホームが、近所の住宅に溶け込むように存在している。ホーム内のテラスからは海岸線と五島特有の豊かな海が視界に入り、見る者の心を穏やかにさせる効果がある。廊下を挟んでユニットが繋がっており、お互いの入居者や職員の動きが分かるように造られている。ホーム内は廊下も広く、手すり沿いに歩行訓練ができ、程よい場所に椅子が置かれている。入居者や職員は表情も穏やかで住みよいホーム作りが垣間見られる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 家族会はまだ発足までに至っていない。介護実施記録様式に工夫を重ねられている。家族に毎月送付する便りや請求書等と一緒に1か月分の介護実施記録を送付されている。研修通知を全職員に回覧という方法で研修参加の平等性を確保されている。グループホーム協議会に加入され交流に努められている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は職員全員で取り組まれ、評価の意義は管理者から説明されている。前回の外部評価での改善項目は、改善計画シートを作成し積極的取り組みをされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。入居者と家族の代表、住民代表(区長)、市職員が参加されている。会議内容は地域行事やホーム行事の案内、入居者の意見を取り入れて検討を重ねサービスの質の向上に努められている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 運営推進会議に入居者が参加されることが、意見や苦情を引き出すことが可能となり、それを職員会議にかけて次回の運営推進会議で報告が行われている。家族に送付される個別の介護実施記録の1ヶ月分が生活状況の全てであり、トラブル発生や解決に向けた取り組みに家族の意見を反映できるようになっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム近くの住民から野菜の差し入れや、入居者と共に敷地内の菜園作業に来られ、近隣の小学校の学習活動を受け入れられるなど交流を持たれている。又、地域の自治会に加入され、地域行事への案内状が届けられることも多くホームと地域の積極的交流が図られている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	新たな理念として地域に密着することを前提に「一人ひとりが自立して、持っている力を出せるように・信頼関係を持ち穏やかに、笑顔で暮らせるように・気持ちを尊重し、楽しい日々を過ごせるように」を掲げられサービスの質の向上に努められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で基本方針を踏まえて理念となる文章を出し合い、多数決で決められた理念であるため、職員は十分理解の上で毎朝のミーティング時に唱和されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの近くの住民から野菜の差し入れや、入居者と共に敷地内の菜園作業に来られたり、近隣の小学校の学習活動を受け入れるなど交流を持たれている。又、地域の自治会に加入され、地域行事への案内状が届けられることも多く、ホームと地域の積極的交流が窺われる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員全員で取組まれ、評価の意義は管理者から説明されている。前回の外部評価での改善項目は改善計画シートを作成し積極的取り組みをされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。入居者と家族の代表、住民代表(区長)、市職員が参加されている。会議内容は地域行事やホームの行事の案内等、入居者の意見を取り入れて検討を重ねサービスの質の向上に努められている。	○	運営推進会議に地区の民生委員の方々の参加を働きかけることで、地域住民が困っていることなど把握でき、運営推進会議が地域への貢献に繋がることに期待したい。

グループホーム 翁頭

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当の市職員が運営推進会議に参加はされるが、書類提出時以外に繋がりは少なく、運営推進会議で取り上げてもらいたいことをホームから提案する準備をされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回発行する便りと共に1か月分の介護計画実行表、請求書・金銭管理帳・領収書を家族に送付されている。特に本人の暮らし振りが分かる介護記録はどの家族も楽しみにされており、記録内容は生活の細部からトラブルまで記載されている。家族が不満を表出しやすい工夫に繋がっている。	○	毎月家族宛に送付される便りには新規採用された職員の紹介を掲載されたことがない。家族訪問時に紹介するより、写真や簡単な自己紹介程度を便りに掲載されることが望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、入居者が参加されることが意見や苦情を引き出す事が可能になりそれを職員会議にかけて次回の運営推進会議で報告が行われている。家族に送付される個別の介護実施記録の1か月分が生活状況の全てでありトラブル発生や解決に向けた取り組みに家族の意見を反映できるようになっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の交代や職員の退職が1年以内に4名あり、入居者への動揺や不安を最小限に止める努力をされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	離島という条件が積極的に研修に行く機会を逃しがちだが、研修への参加希望を積極的に受け入れる体制をとられており、勤務調整や経費の負担などできる限りの支援をされている。研修に関する案内は職員に回覧して研修を受ける機会を平等にされている。又、研修後は必ず他の職員へ報告されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入され、交流ネットワーク作りや勉強会などに毎回参加されるなど積極的姿勢が窺える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望や申し込み前の段階で、家族と共に見学に来られる。見学後、申し込みをされる方が殆どで、その後何度も見学に来られ馴染みの関係を作った後の入居に繋がっている。入居後もしくは家族面会や職員との話し合いなどを積み重ねて信頼関係を築いている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と入居者は「共に生活を支えあう関係」であり、生活の工夫や技など年長者の知恵を教えてもらったり、若い職員には孫のように接して(優しい言葉かけや、叱られるなど)、介護の場面でも職員は「ありがとう」など労わりの言葉を日常的にいただいている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者によっては言葉に表現しにくい思いを把握するため、日々の関わりの中から表情や態度の変化にさりげない声かけが、今まで家族も知らない「本人の思い」を把握できることもあり、新たな情報として職員間で共有し本人を理解するように努められている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員の受け持ち制をとられている。毎月1～2名の介護計画の定期的見直しを含めたカンファレンスで、担当職員がモニタリングを行い、職員の意見や提案、家族の要望など反映した介護計画を作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回介護計画の見直しを基本とされており、入居者の変化に応じた見直しは随時行われている。</p>		

グループホーム 翁頭

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者のかかりつけ病院との繋がりを大切にされており、病院受診時は職員付き添いの下で通院支援をされている。特別な外出支援(墓参り、自宅まで行きたいなど希望時)も柔軟に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医と「報告・連絡・相談」の連携はとられている。定期的な病院受診は職員が付き添い、家族への報告も毎回行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の健康管理は、連携医療機関や地域の看護ステーションと連携体制はできている。重度化に向けた話し合い程度で、重症化されると殆ど医療機関に入院されている。家族や本人の希望に沿って主治医と職員が話し合うことを検討されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉使いや態度などで尊厳を傷つけないことを大切にされており、問題が見受けられると職員への注意や原因を探るなど管理者が細かく注意される姿勢が窺えた。広報への入居者の写真掲載については、本人・家族の了解を得られている。所定の場所に記録物は保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にするために、起床、食事、入浴などは時間のゆとりを持って柔軟に対応されている。		

グループホーム 翁頭

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に応じた準備・後片付けなどその日の体調など確認しながら職員と共に行われている。入居者と同じテーブルで職員と共に和やかに食べられており、介助が必要な入居者には付き添って時間をかけてゆっくり自力で食べることを支援されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回入浴しない日があるが、希望があれば毎日でも入浴できる。拒否は少なく時間をずらしたり翌日に変更するなど対応できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえや味見・食後の洗い物を拭く作業など個別の能力を活かした役割を喜んで行われている。入居者から季節の行事参加の希望は少ない。地区の行事参加への誘いや職員が作った年間行事・本人の希望に合わせた外出支援など柔軟に対応されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外気に当たるような支援プログラムがあり、庭先やホーム敷地内の菜園に行かれる方、買い物や近所の散歩など入居者が希望する外出支援をされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は救急車受け入れ時の迅速な対応のため、広い門扉にも施錠されていない。外出傾向がある入居者は把握されているが、常に職員の見守りがあり、一人で出掛けられる時は「本人が納得する」まで付き添い話を聞きながらホームに帰られる支援をされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練で1回は消防署立会いと指導の下に行われ、1回はホーム独自で出火場所や時間帯を変更しながら入居者や近隣住民・地区消防団の協力を含めて避難、誘導訓練が行われている。	○	自然災害時の緊急事態の想定はされておらず、「新型インフルエンザ」発生時の隔離に至る可能性が考えられることもあり、飲料水や食料の確保を検討されることが望ましい。

グループホーム 翁頭

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が作るが入居者の希望を取り入れるなど柔軟に対応されている。栄養バランスや一日の摂取カロリーも含めて、家庭の食卓感覚での料理やおやつがある。食事や水分摂取量も毎回チェックされている。制限食が必要な方にはかかりつけ病院から食事指導が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く光が入る角度が多方面にあり、ゆったりと過ごせるような構造になっている。畳を敷いた多目的スペースも広く、壁には季節を感じる入居者作成の貼り絵など随所に見られた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のスペースが広く仏壇を持ち込まれたり、使い慣れた品物が個性を表現している。窓からの景観も工夫されており、小さなコミュニティから自室という「家」を連想できる空間が垣間見られる。		